

〔日本靈異記〕下憶持法花經者舌著曝嚙體中不朽緣第一

諾樂宮御宇大八洲國之帝姬阿倍天皇御代紀伊國牟婁郡熊野村有永興禪師化海邊之人時貴其
行故美稱菩薩從天皇城有南故號曰南菩薩爾時有一禪師來於菩薩所略○曰今者罷退欲居山踰
於伊勢國禪師聞之糯于飯春篩二斗以之施師優婆塞二人副共遣使見送

〔七十一番歌合〕中卅五番 左

米賣

山陰や木の下やみのくろ米の月出てこそまらげ初けれ略○中

戀せじと神の御前にぬかつきてさんくの米の打はらふ哉

〔古今著聞集〕十八同法印覺泰が家のれい飯を米の飯にしたりければ

人はみなこめをぞいゝにかしぐめるこのみかしきは飯をこめにす

〔兵範記〕仁平二年十二月十二日壬申御佛事第七日結願日也略○中供四面香花佛供一面佛供八杯
白飯二杯居之

〔常盤嬭物語〕白米がなひめにして湯をものまばやしなくと

〔嘉元記〕元徳二年庚午正月廿二日年會櫃西園院ヨリ送餅五枚菓子飯白半物菜三種酒云々已上

〔名物六帖〕飲食膳核脱粟飯

〔倭名類聚抄〕十七糲米 崔禹錫食經云鳥米一名糲米糲音刺和名比良之良介乃與糲 鳥米謂春一斛之糲成八

斗之米也

〔漢書〕五十八公孫弘弘菑川薛人也略○中弘身食一肉脱粟飯師古曰才脱粟而已不精鑿也

〔源平盛衰記〕三十三光隆卿向木曾許附木曾院參預事

猫間中納言光隆卿宣フベキ事有テ木曾ガ許ヘ座シテ先雜色シテ角ト云入ラレタリ略○中暫物

語シ給ヒテ略○中何鹿田舎合子ノ大ニ尻高ク底深ニ生塗ナルガ所々剝タルニ毛立シタル飯ノ

黒ク糲交ナリケルヲ堆盛テ御菜三種ニ平茸ノ汁一ツ折敷ニ居テ根井持來リテ中納言ノ前ニ

半白飯
黒米飯